

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

FEBRUARY 2017

vol.34

February

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

◆ 神明社（大府市神田町）ほか

所在地：大府市神田町ほか

交通：名鉄名古屋本線「豊明」駅 南西 約 1.7km

神社や寺院は、その由緒や歴史が記録として残されている場合が多く、その中に災害の記録も多く含まれ、過去の地震の様相について重要な手がかりとなることがあります。（定光寺年代記（2016.9月号）など）

大府市神田町の神明社は、江戸以前創建の天照皇大神を祀る神社です。この神明社について、愛知県の各神社の由緒や歴史等を記載した『愛知県神社名鑑（愛知県神社庁、平成4年）』には、「昭和二十年一月十三日、三河地震により鳥居、常夜灯倒壊」とあり、昭和20（1945）年の三河地震で鳥居と常夜灯が倒壊する被害を受けていたことがわかります。今回は、この神明社を中心に、周辺の神社・寺院にまつわる三河地震の被害について見ていきます。

神明社のすぐ近く、豊明市大脇にある大脇神明社境内入口に常夜灯があります。『大脇の歴史（「大脇の歴史」編集委員会、平成15年）』によれば、この常夜灯は昭和19（1944）年の昭和東南海地震と昭和20年の三河地震を受けて倒れ、笠の部分が破損したもので、保存のための修復工事を経て、大脇神明社に存置されているものです。

『愛知県神社名鑑』が愛知県内の神社の情報を網羅した資料であったのに対し、『愛知県歴史全集寺院編（愛知県史誌出版協会、昭和61年）』は愛知県の寺院の情報を網羅した資料です。『愛知県歴史全集寺院編』では、神田町の神明社の少し南、刈谷市恩田町にある松雲院の鐘楼堂について、「天明二年建立、三河地震倒壊、昭和二七年三月再建」との記載があり、三河地震で被害を受けていることがわか

ります。ここまでの場所の被害の記録は、「鳥居」「常夜灯」「鐘楼堂」であり、被害の程度としては比較的軽微なものとなっています（下図の黄丸）。

一方、『愛知県歴史全集寺院編』には、刈谷市をさらに少し南に下った小垣江町の超円寺についても記載があります。超円寺では、「庫裏は昭和二〇年の三河地震後、現住職の手で再建されている」とされており、三河地震で庫裏に被害があったことが読みとれます。また、刈谷市史では、三河地震の際の記録として、「寺院の全壊は小垣江の誓満寺・高棚の空林寺で、半壊は専称寺（以下略）」とあり、小垣江町の誓満寺、専称寺、高棚町の空林寺（空臨寺）で被害が発生していたことがわかります。このように、小垣江、高棚あたりでの三河地震による被害は、構造的に比較的強固な「庫裏」などの建物に及んでおり、揺れの強かった地域であったことがうかがえます（下図の赤丸）。

今回紹介した記録がすべてというわけではありませんが、取り上げた記録の被害の程度を眺めてみると、三河地震で活動した深溝一横須賀断層に近い側が赤丸、そこから少し離れた場所は黄丸、となっています。このように、被害（無被害）の記録を並べてみることで、揺れの強さの広がりイメージすることが可能になり、過去の地震の様相に迫ることができるのです。



紹介した神社・寺院と三河地震の被害程度



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 神明社の周辺には…

● 慈眼寺（海嘯記念碑）

所在地：東海市荒尾町峯脇

交通：名鉄常滑線「新日鉄前」駅 北東 約 400m

海嘯とは海鳴りのことで、地震による津波や高潮を指します。また、昔は高潮のことを「津浪」「津なみ」とも

呼んでいました。この碑は津波ではありませんが、明治 22（1889）年の高潮による被害を受けて建立された石碑です。



この明治 22 年の高潮では、堤防の決壊、海水の侵入などにより、小舟等の漂着、浸水被害が発生しています。



● 村木常夜灯跡

所在地：東浦町森岡前田

交通：JR 武豊線「尾張森岡」駅 東 約 400m

村木常夜灯は、旧津島神社（現在の村木神社）への献灯、村中安全、海の安全を願って、旧大洗街道沿いに建立され

ていましたが、昭和 19（1944）年昭和東南海地震の際に倒壊しています。この跡地に、平成 19 年 3 月、史跡とするために常夜灯が再建されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 大府盆梅展

盆梅は、盆栽に仕立てた梅、鉢植えにした梅のことで、盆梅展は滋賀県の長浜のものが有名ですが、大府市でも大府市観光協会の主催で毎年 2 月に大府盆梅展が開催されます。（平成 29 年は 2 月 5 日（日）



大府市観光協会 HP より

～ 2 月 12 日（日）、大倉公園にて）

大府盆梅展では、紅梅や白梅など、盆梅約 70 点が展示され、なかには推定樹齢 300 年の盆梅も展示されます。期間中には、梅の花に囲まれた中で琴・尺八の演奏が行われるほか、呈茶、甘酒やぜんざいのサービス、梅の苗木や観光みやげの販売なども行われます。

2 月のあいちの花

平成 29 年 2 月のあいちの花は、スプレーバラです。

普通のバラは、1 本の枝に 1 輪の花を咲かせます

が、スプレーバラは、1 本の枝にいくつもの花を咲かせるバラで、スプレーの名称は品種ではなく咲き方を表しています。

花言葉は「温かい心・感謝・気品」などで、フラワーバレンタインに贈る花としても人気があります。



● ブレイクタイム ●

♪ このやま 木の山の芋

木の山の芋は、大府市の木の山地区の農家を中心に生産されている、市の代表的な特産品の山芋で、強い粘りと素朴な風味、「畑のウナギ」と言われる栄養価の高さが特徴の食材です。滋養たっぷりでカロリー控えめな、ヘルシー食品としても注目されています。

市内では、木の山の芋を原料にした口当たりまるやかな焼酎「山芋焼酎 木の山」も販売されているほか、木の山の芋をモデルとしたゆるキャラ「いもメン」も存在するようです。



木の山の芋と山芋焼酎 木の山
大府市観光協会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 29 年 2 月）